

優秀賞

「江頭匡一に叱られて」 梅谷羊次（商業界）

フードビジネス学科 中島美羽

この本はロイヤルホストの創業者である江頭匡一さんについて、側近で事業の拡大に尽力された著者が実際に体験された内容で、強烈なエピソードを交えて従業員の立場から見た創業者の「ロイヤルホスト」への想いの強さが表されていました。

創業者本人が書いたのではなく、傍らで叱られ続けた立場で、一部理不尽さも感じつつも「創業者」というものを分析的に表現されているので、とても理解しやすい内容になっており、江頭さんの会社への愛を読み取ることができました。

江頭さんの「私の会社」という感覚は、与えられた役割の範囲で働いている普通の役員や従業員の感覚と大きく違っていました。会社を成長させる上で創業社長にどれだけ近い感覚を持つ従業員育てられるかが大切で、そこに妥協がなかったからこそ、これだけの大きな企業を作りあげることができたのだろうと思いました。

江頭さんは、課題への取り組みに対して、「いいか、教えておくよ。自分が手をつけないと改善できない。自分で行動しないと身につかない。自分が苦勞した分だけ身につく。身についた経験は一生の財産になる、誰からも取られない。」と指導を受けたエピソードが紹介されていました。この江頭さんの言葉は今の私に大きな衝撃を与えてくれました。私は、嫌なことや苦しい環境から逃げ出したいなくなってしまうことがありますが、その苦しいことや嫌なことに自ら立ち向かうことが大切なのだ、改めて思いました。さらにその困難を乗り越えることによって、自分が大きく成長することができるということを学びました。

一番心に残った言葉は「若い時の苦勞は、買ってでもしろ！」です。きっとこの言葉は、江頭さん自身が他人に頼ることができない環境に立ち続けたことによって生まれた言葉だと思いました。社会人になる前にこの本に出会えてよかったです。今のうちにできることをしっかり積み重ねて江頭さんのようなたくましい人間になりたいです。